

金沢アートグミ 6周年記念個展

Atsuko Nakamura

The Border of Conscious and Unconscious

意識と無意識の境界



金沢アートグミでは、2015年4月26日（日）から2015年7月20日（月）まで、地元石川県出身のアーティスト、Atsuko Nakamura の日本初個展を開催します。

Atsuko Nakamuraは現在ヨーロッパを中心に活躍している若手アーティストです。2005年武蔵野美術大学建築学科修了。卒業後、間もなくアーティストとして活動を始めました。初期の作品から一貫して「都市と自然」をテーマに制作し、インスタレーション、映像、ドローイング、エッチングなどを手がけました。2011年ロンドン大学スレード美術学校大学院修了制作展で発表した流木のインスタレーション作品「Engrave」はヨーロッパの美術関係者から注目を集め、それ以来、世界各地の美術館、ギャラリー等で発表してきました。

今展は、海外で評価されたAtsuko Nakamura の作品を、母国、日本に初めて紹介する貴重な展覧会です。Nakamura が近年テーマにしてきた「意識と無意識の境界」を展覧会のタイトルとして、金沢アートグミの特異な空間を生かし、また地元石川県の歴史や民話を用いたサイトスペシフィックな新作の数々を展示します。

○ 概要

展覧会名 | 金沢アートグミ 6周年記念個展

Atsuko Nakamura 個展 意識と無意識の境界

主 催 | NPO法人金沢アートグミ

協 力 | 株式会社 北国銀行

会 期 | 2015年4月26日(日) - 2015年7月20日(月)

※ 4月25日18:00より下記イベントあり

開館時間 | 10:00 - 18:00

休 館 日 | 水曜日

※ 4月29日(水)・5月6日(水)は営業、翌日休

入 場 料 | 無料

会 場 | 金沢アートグミ

〒920-0907 石川県金沢市青草町88番地 北国銀行武蔵ヶ辻支店3階

Tel 076-225-7780

Web www.artgummi.com

関連イベント

4.25[土]18:00- オープニングパーティー(¥500-軽食付)

19:00- アーティストトーク 土屋 公雄 × Atsuko Nakamura

Atsuko Nakamura がアーティストを志すきっかけとなった恩師である土屋公雄氏をお招きし、対談形式のアーティストトークを行います。(予約不要・先着50名)

(つちや・きみお 彫刻家・愛知県立芸術大学教授・武蔵野美術大学建築学科客員教授)

○ Atsuko Nakamura 略歴

2005年武蔵野美術大学建築学科卒業、2011年ロンドン大学スレード美術学校大学院彫刻課程修了。主な展覧会は、2014年「Monologue Dialogue 3」バンコク現代美術館(バンコク/タイ)、2014年「Academy Now I」ボローニャアートフェア(ボローニャ/イタリア)、2013年「Delve」Leyden Gallery(ロンドン/イギリス)、2011年「The Future Can Wait 2011」Charlie Smith London and Saatchi Gallery(ロンドン/イギリス)、2011年Atsuko Nakamura個展「The Pulsating Earth」La Caja Blanca Gallery (パルマ・デ・マヨルカ/スペイン)など。

○ Atsuko Nakamuraの作品と本展について (文/藤岡勇人)

Atsuko Nakamura は、これまで「都市と自然」をテーマに現代社会が抱える様々な矛盾や葛藤を翻訳し、身体的な体験を促す作品表現を通して社会への提言を行ってきました。異なる国や地域で制作発表してきたNakamura は滞在先で必ずフィールドワークを行い、その「場所」の風土や住人との対話を繰り返し、その経験から生まれる疑問やインスピレーションを作品へと昇

華させてきました。天災と人災が続く不安定な時代に整合性が取れず、大きなストレスを抱えた人間、自然、都市、地方、伝統文化の警鐘から生まれたインスタレーション作品は世界各国で称賛を受けています。

Nakamura のサイトスペシフィックな作品は、見る角度や時間帯によって意味が変わる流動的な要素を併せ持つため、常に新鮮な感覚を喚起させます。また、表現メディアは流木や塩などの自然素材を用いた彫刻やインスタレーション、映像、音、版画、ドローイングなど多岐にわたり、それらは作品のコンセプトに応じて慎重に選ばれます。Nakamura は作品毎に使用する素材の意味を咀嚼し、その特性を生かしながら、辛辣な社会的問いかけを行っています。比喩的で時にユーモラスな社会風刺を交えたNakamura の作品は、誰しもの心に強く訴えかけてきます。

異なる「場所」で横断的な「メディア」や「素材」を用いて制作される作品は常に刷新されつつも、根底には本来人間が共有しているイメージや深層心理への言及があり、その言語は作品の存在感として現れ、見る人の感性に語りかけます。その魅力は決して90年代初頭にオリエンタリズムで括られた欧米の日本神話ではなく、人類の根源的なテーマを含蓄した革新的な現代表現としてヨーロッパで高い評価を受けました。

このような作家としてのスタンスは、Nakamuraが大学時代に学んだ建築的な視点から出発し、土屋公雄氏やジョン・ヒリアード（John Hilliard）氏の影響を受けながら、数多くのフィールドワークや実験を通してNakamuraが見出した方法論でもあります。

本展はNakamuraの日本初個展であり、また初めて故郷の石川県を舞台に制作発表する機会となります。展示会場である金沢アートグミは2009年に北國銀行武蔵ヶ辻支店の3階にオープンしたギャラリーで、建物は、日本を代表する建築家、村野藤吾によって1932年に建築されました。歴史的な重厚感のある空間を生かし、その場所のルーツや人々に言及するサイトスペシフィックなインスタレーションは展覧会の見どころです。また、Nakamuraが一義的な主眼を置く「都市と自然」の問題は、日本におけるポスト3.11の文脈で語られます。日々風化していく原発問題への危機感を呼び覚ますようなインパクトのある彫刻作品や音の作品も展示されます。

Nakamuraは「都市と自然」を考える上で、ユングの「人は自然の一部でありながら、人間の意識は自然に逆らう性質を持っている」という言葉、また「都市は人間の意識が作り出した人工物である」という説明を起点としています。このことからNakamuraは人工＝意識、自然＝無意識という図式を見出しています。Nakamuraの作品は無意識の領域を視覚化することで、無意識の側から意識の領域にまつわる様々な問題をあらわにして提示しています。本展「意識と無意識の境界」は、Nakamuraのマルチメディアな現代アート表現を通して、見る人の感性に語りかけ、様々な問いを発する展覧会です。

藤岡勇人(ふじおか・はやと)

ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校卒業、BA Criticism, Communication and Curation学科修了。文化事業の企画・運営、美術評論、ドキュメンタリーの映像制作に従事している。

○ 参考画像

表紙画像及び次ページの画像を広報用に提供します。データのご希望は金沢アートグミまで。

※ご利用の際には作家名と下記クレジットを明記してください。



Jigami - Sound of Vitality: 7500×3500×7500mm / driftwood, screws, water / 2005



A Letter to My Grandfather 2011 / 2000×500×400mm / Steel, plywood, light, salt, speaker, my heartbeat while I am reading a letter to my grandfather



Border of Consciousness and Unconsciousness Installation: 200×200×200mm / Map of England, salt, light



Sound of Memory Installation / 300×150×300mm / Wood, Wire, Strings, Salt / 2013



I fly: here over the water - there under the trees... Installation / 1900×1000×510mm / Driftwood, screws, salt, light, The music score of Violin Concerto No.1, Op.35 by Karol Szymanowski / 2013